

幹本申 10号(3月15日)

「2024年度 幹総セ業務計画について」に関する交渉を行う！①

1. 全検工程改善に向けた試行について、目的とスケジュールを明らかにすること。また、社員の「安全・健康・ゆとり」を確保し、車両品質向上につながる工程とすること。

- (会社) 周期延伸で回帰が伸びるため、現在よりも入場両数は減少する。また、今後の働き方も踏まえて改善を行う。2025年度実施に向け、全検450両/年に適した試行を行う。
- (組合) ワークやSP、台車の全検ラインも変更するのか？端境なくすために工程を延ばす、それに合わせて要員を減らすのか？E5～E7系それぞれ何日工程を目指すのか？
- (会社) 台車工程は変更しない。検証内容や編成、工程日数は検討中だ。工程は伸びる方向になる。持続的にメンテを行える体制を検討する。決まり次第、[関係箇所には周知する](#)。
- (組合) これまでは全検550両/年施工に向けて工程短縮を行ってきた。今回は逆だ。これまでできなかったメンテナンスも含め、車両品質が向上する取組みにして頂きたい。
- (会社) [品質維持は前提](#)だ。故障のトレンドも含め、必要な取組みは引き続き行っていく。

2. LV調整棒ロックナット緩み暫定対策については、台検台振り工程の慢性的な遅延が発生していることから、引き続き原因究明を行い、早急に恒久対策を実施すること。

- (組合) 暫定対策でネジロックを塗布しており、E5台振り時にLV棒の全数取替が発生する。工程遅れは1時間半程度。4月以降はE7も対象となる。早急に対策を実施してほしい。
- (会社) 現状は把握している。原因は特定できていない。確実な対策とするためにノルトロックの効果は長期スパンで検証する必要がある。引き続き、[スピード感をもって対応する](#)。

3. 新型列車無線のみJR本体で外観検査を実施していることから、早急に検査手法の確立及び規程の整備を行い、効率的な体制となるように委託に向けた準備を行うこと。

- (組合) 新型無線は今後増えてくる。新型無線の外観検査のみJRでの対応は非効率だ。「外観検査をJRに戻す」「委託会社に免許を取得させて対応させる」ことはできないのか？
- (会社) 現時点でその考えはない。[車種により対応が異なる状況は好ましいとは思っていない](#)。引き続き、輸送管理科とも連携を図りながら、[技術的に解決できるように検討していく](#)。

4. 作業実態確認や規程・検査記録の整合確認を実施しているが、規程についても誤記や欠落、実作業との乖離等があるため、整備標準改訂PTを立ち上げて内容の見直しを行うこと。

- (組合) 昨年も申し入れている内容だ。
- (会社) 完璧だとは思っていない。[プロジェクトではなく業務として、幹総セ品管と新幹線運車部で取組んでいく](#)。都度、見直しは図っていくので、修正があれば連絡して頂きたい。
- (組合) 委託契約の仕様書に「基準値は整備標準に基づく」と記載されているが、工事件名と規程の関連付けがされておらず、不明瞭になっている実態がある。改善できないか？
- (会社) 現在の契約スキームが間違っているとは思わないが、課題があることは受け止める。仕様書と規程の関連付けは[勉強しながら検討していく](#)。是非、声をあげて頂きたい。